

# 盛大に全共鹿児島大会開催

「和牛新時代 地域がやく和牛力」をテーマに、第12回全国和牛能力共進会が10月6日、鹿児島県の霧島市牧園町で開催された。「和牛のオリンピック」とも称される畜産業界最大のイベントである同大会は今回で12回目。コロナ禍で、大会の開催が危ぶまれる時期もあったが、大会史上最多となる全国41道府県から特別区24頭を含む439頭(種牛の部273頭、肉牛166頭)が出品され、無事に開催の運びとなった。10日までの5日間、新設された特別区「高校および農業大学の部」を含む9区で、和牛日本一の座をかけて各県の日ごろの改良の成果が競われた。(詳細は10月25日付)

## 過去最多の439頭 5年ぶり和牛の祭典



全国から過去最多の439頭が出品され、華やかに開会式が行われた

開会式は鹿児島県霧島市の霧島高原国民体育会広場の特設会場で開催。この2月に国産に指定された霧島神宮や豊かな温泉資源などをもち、九州有数の観光地でもある同地には全国から多数の関係者が参集した。6日午前中に行われた開会式では、開会宣言・国歌斉唱のあと、全国和牛登録協会の向井文雄会長理事が「今大会は新型コロナウイルス感染症により開催自体が危ぶまれていたが、皆さまの熱意

目として成長するまでに至ったことは、和牛を愛し、改良事業に携わるものとして誠に同慶の至りである」「現在、地球規模の食糧問題、環境問題など、和牛を取り巻く状況は大きく変化しており、和牛も従来の脂肪交雑だけでなく、脂肪の質などの多様な嗜好性が求められている」「そうした変化に対応するためには若い担い手の育成が不可欠。そのため、今大会は『和牛新時代』のテーマとあり、出品区と出品条件に(そうした意図が)反映されている。出品者の皆さまにとっては5年に1度ののき舞台であり、和牛を絆に交流が深まることを期待している」とあいさつ。

来賓・関係者の祝辞のあと、柳森ファームの森義之氏が「関係者のご厚



初日は特別区(高校および農業大学の部)の審査が行われた。審査は14~17カ月未満の雌牛1頭と、日々の取組内容の報告書および会場でのプレゼンテーションの総合評価となる。各校ともに日々の学内活動での取り組みを発表し、「和牛新時代 地域がやく和牛力」のテーマに沿った活動内容を報告した。



ミートコンパニオンの植村常務が「華盛り」を披露

1日目のプログラム終了後、鹿児島県実行委員会、全国和牛登録協会、中央畜産会の主催で、会場に設営されたハーベキョーコーナーで参加校、関係者約250人での「農業高校生・大学生歓迎交流会」を開催。開会式で披露された「華盛り」が披露された。

「肉の華盛り」が披露された。植村常務は「和牛輸出事業に携わっているが、和牛は牛肉を超え世界に誇る特別な食品だと強く感じている。販売事業者としても海外からの高い評価は非常に誇らしい」と話した。

「私たちは生産者に対する感謝と和牛に対する敬意を表するため、海外でこうしたパフォーマンスをする機会があるときは、正装で行っている。次代を担う皆さまも自信と誇りをもって、生産に取り組んでほしい」と学生に向けたメッセージを述べた。

そのあと、全国和牛登録協会の向井文雄会長、中央畜産会の森山裕会長らがあいさつが行われ、鹿児島県牛のハーベキョーパーティーがスタート。各校とも互いの健闘をたたえつつ、交友を深めた。

### 学生らと歓迎交流会

### 互いの健闘をたたえる

ハム・ソーセージ加工用器具設計・施工

**リテイナー工業株式会社**

TEL 0489(53)4101代 FAX 0489(53)4103